

明治学院大学 社会学・社会福祉学会



# 学内学会会報 第30号

～今春ご退官された村上雅昭先生よりご寄稿いただきました～  
学内学会会報に寄せて

村上 雅昭 (元社会福祉学科教員)



村上 雅昭 先生

明治学院大学に25年前“入学”した時は、今から思うと想像以上に“精神科病院”の勤務医生活との間に culture shock に類するようなものがあつたと思う。それを、ある種救ってくれたのが社会学科の原田勝弘先生が主宰した“離島調査”である。これには、実は前段がある。一言で言うと outdoor 派なのである。

高校時代は Wander Vogel 部に属していた。ドイツ語で訳は“渡り鳥”。生活用具一式を sack (現在のような縦に長い attack sack) ではなく、横に長い Kissling Sack と呼ばれたものである。今や、殆ど見かけることが無くなった歴史的遺物と言っても良い。

Wander Vogel は単独峰を目指すのではなく、縦走専門である。一年生の時の合宿は八ヶ岳連峰。2年生は妙高高原、黒姫山。3年生は岩手連山、八幡平であった。2年生時には sub-leader、3年時には leader (部員の互選) となり、担ぐ装備もこの二人に限っては軽くなる。1年生時に下山後の反省会で“これほど、重量差があるのは不公平だ！”と文句を付けた記憶があるが、先輩から“上級生になれば何れ分かる”と一蹴され、それきりだった。実際に、学年が進むにつれて sub leader、leader を体験すると痛感する。要するに肉体的に疲労困憊しては正しい判断が出来かねる。今の管理的な学校体制では想像つかないが、当時は一班で6名くらいの班が3-4班形成され、登り口は異なるが、1週間の山行きを計画し、何日にどこそこの、Base Camp (BC) に辿り着くと言う計画を立案する。部長に山行の予定を提出すると、“ここで大雨の場合

はどうするんだ”等々の質問が飛ぶ。そこは、用意した問答集ではないが抜かりなく、説明をする。Sack は一番重いときで、ポリタンの水を詰めると47キロになった記憶がある。何しろ、玄関先で sack を置いて担ぎ上げるのに一苦勞した。駅に着くまでが一苦勞だった。“本当にこれで山に1週間も入って登山が出来るのか”と不安になった覚えがある。1週間も40キロを担いでいると何人かに“sack 麻痺”が起きる。上腕が動かなくなる。漸く、東京に戻るため、切符を買う時にも手を振って勢いを付けて窓口にお金を差し出す。医学的に言えば“腕神経叢麻痺”である。

一日の概要は4時起床、8時就寝。朝夕と飯盒炊飯。新聞紙は万能で、湿気予防のため衣服を包んだり、sack の型崩れ防止のために新聞紙を詰め込む。これは火起こしの起点になる。石を集めて竈を作り、小枝を集め、鉋で適した木材を切り出して焚火を起こす。飯盒は“初めチョコチョコ中(後)パッパ”の言葉通りで、その後引繰り返して暫く“蒸す”のがコツである。食料は米から一切切を自力で運ぶ。現地調達は一切無し。故に、肉は“味噌漬け”が基本である。しかし、1mgでも装備は軽くしたいので味噌は極力薄く塗る。食べるために取り出すと大体が黴だらけになる。しかし、全員が食べたい一心なので黴をこそげ落として食べた。

昼食は沢があれば水を汲んで持参の粉ジュースで飲み物を作り、余った飯盒飯に鯨缶を開けて食べるのがお決まりだった。最後のBCでcamp fire を囲んでワングルに伝承される歌を皆で歌う。詳しい歌詞は失念したが“鯨のゲップが出る”と言う一節があり、まさにその通りだった。

行軍中に午後3時には一時中断。日替わりの気象担当が短波radioに耳を傾けて“南大東島、\*\*\*の風、風力\*”で始まる気象情報を、気象観測地点が刷り込

んである白紙の日本地図に落とし込んで等圧線を書き込んで現況の天気図を作成し、leaderに報告する。

当時は山道も山小屋も整備が行き届かず、山小屋自体、多くは存在しなかった。用足しは、各自、“雉撃ち”と称してスコップを手に、近場で穴を掘って埋めてくる。語源は“雉を撃つ”時は草むらに低い姿勢で腰を落とすからだと言われている。一度、手をかざしても見えないような濃霧だったのでCamp Site (CS) から遠くに行くのが面倒で目と鼻の先で“雉撃ち”に及んでいたら一瞬にして強風で濃霧は吹き飛び“丸見えだぞ”と先輩に怒られた記憶がある。

この、重装備の中でBCのカレーのために隠し味と称してトマトケチャップを持参した同級生が居た。今でも付き合いがあるが、料理上手である。

小生が3年生の時にleaderになった時の山行は岩手山の鬼ヶ城。もう10-20分も歩けば頂上の予定だった。直前でスコールの様な大雨に見舞われ、狭い山道がさながら滝の様な雨の通り道になった。苦渋の決断で登頂を断念した。同じ班の面々から文句が来るかと思いきや、何も異論はなく、無事に撤収した。良い判断だったと今でも思う。

前置きが些か長くなったが、“入学”直後から社会学科の原田先生が主体となって“離島調査”に誘ってくれたのである。“山を離島に替え”て、加計呂麻島(又吉直

樹の出身島として今では有名)に3回、日本最南端の波照間島、日本最西端の与那国島に同道した。この、夏休みのeventを心待ちにしつつ、学科・学部と教員生活に馴染んでいったと思う。幾つかの印象に残る出来事は加計呂麻では一日の調査とその総括を終えて、民宿の屋上で満天の星を見ながら飲む黒糖焼酎の美味かったこと。ある日、食堂で食べたヤギ肉・ニラ炒めと黒糖焼酎の相性もバッチリであった。また、“渡難”という焼酎の工場に赴いて90°の原酒を試したこともあった。食道が焼けると言うか、粘膜は出血しているだろうと思いつつ痛飲した。殆どが飲み食いのお話であるが、飲食以外で印象に残ったのは加計呂麻島で魚雷艇・震洋の模型が洞窟に係留されたのを見たことである。旧軍の特攻兵器の一つである。戦後作家となる島尾敏雄が出撃待機期間中に村長の娘と結婚し、結局、出撃命令は発令されず終戦で東京に連れ戻ったが妻がSchizophreniaを発症して国立国府台病院に入院したのを聞いていた。因みに、他の特攻兵器は一人乗り潜水艦“海竜”と一人乗り魚雷の“回天”である。実践に至らず、訓練中に亡くなった兵士が大勢いたと後で聞いた。

調査は各戸に悉皆で聞き取り調査した。“調査”は面白いと実感した次第である。夏休みに実施する調査を愉しみにしつつ日々の教員生活を送りながら教員生活に馴染んでいったのが振り返ると実情であった。

～ 2020年度学内学会副会長(主任)であった岡伸一先生よりご寄稿いただきました～

## 出会いと別れ

岡 伸一(社会福祉学科教員)

大学は、多くの出会いと別れの舞台となります。今日3月17日は卒業式でした。長年教員をやっていますが、コロナ禍でのこんな卒業式は初めてです。チャペルには卒業生の代表のみ数人が着席し、学生は学科ごとに2つの大教室でその中継画像を見ました。合唱はなく、オルガンの演奏だけでした。昨年中止されたのに比べれば、集まれたのは良かったと感じます。毎年桜の頃の日常の光景も今回は異変でした。

4年周期の学生の変化は速いものです。教員も異動はゆっくりですが、着実に進んでいます。卒業生の皆さんにとっては、教わった先生が退職になるのは、寂しく感じると思います。今年も北川先生と村上先生が退職となりました。昨年も岡本先生、松原先生、その前年に渡辺先生、清水先生、八木原先生と、親しんだ先生が次々に大学を去っていきました。どういう年に、誰と時を共

にするか、運命的な出会いのすべてに奇跡を感じます。

さて、大学教員には7年に1度のサバティカル(特別研究休暇)制度があります。2021年度は佐藤先生、和氣先生、深谷先生とともに私も最後の機会に恵まれました。教育や学内の業務が免除され、研究に専念することが認められます。キャンパスにも出向しないこととなります。学生や教職員の皆さんと1年間お会いできないことは、寂しくもあり、ほっとすることもあり、複雑な心境です。忙しい毎日の生活から一歩引いて、もう一度自分の研究や生活を見つめなおす良い機会と思います。順番にあたった教員にとってはありがたい制度ではありますが、問題もあります。授業は代講の先生にお願いし、ゼミ等もお休みになります。私の場合であれば、北欧フィールドワークを楽しみにしていた学生もいて、実施されないことでガッカリしている学

生もいます。今回はコロナで、もともと実施が難しかったと思いますが。学内業務も他の教員にしわ寄せが多くことになります。多くの人に不都合をもたらしながら、サバティカルが実施されています。より有意義な研究成果を残して、皆さんに恩返ししたいと思います。

桜の季節には、別れと出会いの多くの場面があります。毎日当たり前のように会っていた友人と、もう二度と会えないことになるかもしれません。当たり前の日常が改めて有難いことに思えてきます。去っていく卒業生の背中を見つめながら、「それぞれの場所で頑張っ  
てね」とつぶやく自分がいます。一人一人の学生の背後には、家族や友人など多くの人たちの期待が見えます。自分も4人の子供の父親としての立場にありますから。

明治学院大学社会学部学内学会は、卒業生と現学生と教員をつなぐ貴重な橋渡しの役割りを果たしています。各種講演会や卒業生との交流会、映画鑑賞会、そして機関誌『Socially』の発行等、ここでも出会いの場がたくさんあります。この学内学会の『会報』も節目の30号となりました。学内学会のいろいろな活動を通じて、多くの出会いと別れが展開されてきました。卒業生を見ると、母校や後輩への優しく温かい眼差しを感じます。

平成から令和までの30年間余りも、いろいろなことがありました。東日本大震災やコロナ感染症拡大まで、誰がこの状況を予想できたでしょう。低調な経済をはじめ、暗いニュースが多かった印象です。多様な時代背景に彩られながら、私たちの人生は進んでいきます。時代は変わっても、ヘボン博士が唱えた明学の基本理念である Do for others を引き継いでいてもらいたいものです。いつでもまたキャンパスに戻ってきてください。

## 2020年度 学内学会活動報告

～ 2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大による影響を色濃く受けた～

2020年4月7日～5月25日 緊急事態宣言(第1回目)

※3月の卒業式と4月の入学式は中止となった。

2021年1月8日～3月21日 緊急事態宣言(第2回目)



### ★会報29号発行

6月30日(火) 発行部数 2,600部

### ★第30回総会(コロナ禍のため書面開催)

7月15日(水) に資料を配布し、7月28日(火)に書面決議を行った。

学生14名、卒業生9名、教職員30名の計53名の賛成を得て、2019年度決算報告、2020年度予算案が承認された。また、内規も可決され、支出に関わる細目について定められた。

### ★研究発表会

12月19日(土) オンライン開催(11月時点ではハイブリッドで開催することを一旦決定したが、その後の新型コロナウイルス感染再拡大により、オンライン開催に変更)

3分科会で合計15件の発表が行われた。内訳は、ゼミ発表5件(社会学科4件、社会福祉学科1件)、個人発表10件(社会学科4件、社会福祉学科6件)であった。

3つの会場(Zoom会議室)において、Zoomの資料共有機能を活用して発表が行われた。発表者のパソコンの不具合で音声不明瞭になってしまった発表もあったが、その他は円滑に進行した。

#### ●第一分科会

坂口緑ゼミ(5名)

共に学び、共に生きる社会へ —障害者における生涯学習の現状と課題—

坂口緑ゼミ(2名)

不登校児童生徒に対する民間と行政の学習支援  
CHEN MEI (17SW)

在日中国人の育児ニーズ —家庭類型の視点から—  
長崎花奈子 (17SW)

障害のある外国人児童生徒の教育的支援に関する研究 —保護者の抱える困難に焦点をあてて—  
實方徹平 (20SWM)

子ども子育て支援新制度下における保育施設等の委託費に関する研究の経過報告

#### ●第二分科会

鬼頭美江ゼミ(6名)

①Instagramのストーリー機能に関する調査

②自信と印象評価についての社会心理学研究

鬼頭美江ゼミ(6名)

①対人ネットワークと恋愛関係における理想

②マッチングアプリ利用者の承認欲求

岩田和也 (17SG)

発言抑制の多元的無知に関する検討

堀口優人 (17SG)

逆転学習における社会的サポートの効果について

全雅倫 (20SGM)

産後の身体的実態とイメージのギャップ —情報の不十分がもたらす深刻化—

LONG HAIYING (20SGM)

職場のジェンダー平等推進における男女意識について —日本企業に勤める男性と女性を対象として

●第三分科会

角 能ゼミ (5名)

特別養護老人ホームにおけるコミュニケーションに関する考察

富田もゆこ (20SWM)

社会政策形成におけるソーシャルワーカーの役割 —反抑圧主義を素材として—

下田 尚子 (20SWM)

高次脳機能障害のある方の家族支援とソーシャルワークについて

本名雅美 (19SWM)

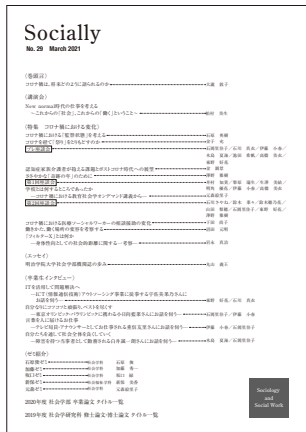
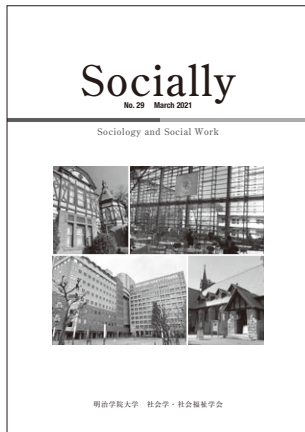
医療ソーシャルワーカーと入退院支援看護師の協働

★Socially29号発行

3月16日 発行部数 1,900部。

特集:「コロナ禍における変化」

教員からの寄稿と学生による3回の座談会の記録を掲載し、コロナ禍の「今」を記録した。



学生部会活動報告

★新入生学科ガイダンスでの広報

入学式中止に伴い中止

★入部説明会(春) (担当 大川恭子・石川真衣・赤木小百合・宇佐美真央)

5月23日(土) オンラインで開催。PowerPointを使用して学内学会学生部会の活動内容を説明した。1年生2名、2年生2名の参加があり、うち2名から入部希望の連絡があった。

★座談会 (Socially特集企画) (担当 石岡里佳子・伊藤小春・木島夏海・高橋美衣・東野好花)

Sociallyの特集企画として学生の座談会をオンラインで行った。まずは、7月26日(日)にプレ座談会として、学内学会メンバー7名で開催した。8月12日(水)には第1回座談会として4名の学生と学内学会編集委員2名で開催。8月22日(土)には第2回座談会として4名の学生と学内学会編集委員2名と編集担当教員1名で開催した。座談会の記録はSocially29号に掲載した。

★社会学科ゼミサロン (担当 大川恭子・西村夏海・伊藤小春・東野好花・高橋美衣・鈴木穂乃花)

10月10日(土)に4部制でオンライン開催した。12個のゼミを4グループに分け、1グループ40分で順番に開催。第1部:34人(3年生6人)、第2部:27人(3年生5人)、第3部:43人(3年生8人)、第4部:41人(3年生8人)の参加があった。オンライン開催となり、参加する2年生がいるか心配だったが、想像していたよりも多くの2年生が参加した。ゼミ生の3年生は各ゼミ1~3人が出席してくれて、2年生からの質問に真剣に答えてくれた。

また、昨年同様、ゼミサロン開催前には「ゼミアンケート」を実施し、2年生に配布した。昨年の反省を生かし、回答者数を増やしたことに加え、どのゼミ生も丁寧に詳しく回答してくれたため、充実したゼミアンケートを作成することができた。

★入部説明会(秋) (担当 赤木小百合・石川真衣・池田希帆)

10月17日(土)オンライン開催。参加者は1年生4人、2年生1人の合計5人であった。春の説明会で使ったパワーポイントで、学内学会の説明をした。「参加する学生のマイクやカメラのオンオフは自由」としたため、参加した学生は全員マイクとカメラをオフにした状態で、コミュニケーションをとれずに終わってしまった。今後は工夫が必要と反省した。

★講演会「『New normal時代の仕事を考える~これからの『社会』、これからの『働く』ということ~」(担当 石川真衣、石岡里佳子、大川恭子、池田希帆)

11月11日(水)、オンラインにて開催。参加者は学内外から合わせて46名。講演者は、リクルートホールディングス執行役員兼、株式会社リクルートマーケティングパートナーズ代表取締役社長であり、本学社会福祉学科卒業生でもある柏村美生氏。

柏村氏には1時間ほどご講演いただき、在学中に活動していたボランティアのエピソードから、働くことに対する考え方まで、充実した内容でお話しいただい

た。その後の質疑応答の時間には、就活について、仕事について、人生の目標についてなどの様々な質問に対して、学生に寄り添って親身にお答えくださった。コロナ禍での働き方の変化に関しても現場のリアルなお話をしてくださったので、就職活動を控える学生をはじめ、参加者全員にとって実りのある時間となった。講演録はSociallyに掲載した。



## 卒業生部会活動報告

### ★社会福祉学科卒業生と学生の交流会

10月31日(土)に「社福卒業生とのオンライン座談会」としてオンラインで開催。

卒業生は、介護サービス事業所、療育センター、特別支援学校、生活保護ワーカー、社会福祉協議会など、本学社会福祉学科を卒業して様々な現場で活躍する若手5名が参加し、在學生は社会福祉学科1～3年生の12名の参加があった。

卒業生と在學生との交流の要素も含んだ本企画では全員カメラオンでの参加となり、会の初めには明学にちなんだクイズで盛り上がった。その後、それぞれの卒業生から学生時代や仕事の内容などを話し、後半は



卒業生の仕事の職種に分かれた分科会(ブレイクアウトセッション)を行い、在學生と卒業生が対話を通して、在學生の具体的な悩みや相談に卒業生が応えた。

参加した学生からは、「歳が近い先輩方から福祉の本音を聞くことができた。」「福祉のコース選択直前で進路に悩んでいた。卒業生の先輩から資格の勉強や就職活動の話聞いて頑張ろうと思った」などの感想があった。

本企画で卒業生が学生たちの身近なロールモデルとなり、今後の学生生活や将来の進路を考えていくための一助となることを願っている。

## 異動・消息

- 2020年10月 羽田新名誉教授 ご逝去
- 2021年3月 社会福祉学科教員の北川清一先生が退任。
- 2021年3月 社会福祉学科教員の村上雅昭先生が退任。
- 2021年4月 社会学科に仲修平先生が着任。
- 2021年4月 社会福祉学科に宮崎理先生が着任。

## 学内学会 新体制

- |          |                           |
|----------|---------------------------|
| 会長       | 大瀧 敦子<br>(社会学部長・社会福祉学科教授) |
| 副会長(主任)  | 金子 充(社会福祉学科教授)            |
| 副会長      | 加藤 秀一<br>(研究所所長・社会学科教授)   |
| 編集担当     | 澤野 雅樹(社会学科教授)             |
| 企画担当     | 松波 康男(社会学科准教授)            |
| 会計担当     | 宮崎 理(社会福祉学科准教授)           |
| 卒業生部会委員長 | 堀込 伸一(1992年卒業)            |
| 学生会委員長   | 池田 希帆(社会福祉学科3年)           |

## 新委員長挨拶

〈学生会〉

2021年度学生会の委員長を務めさせていただきます、社会福祉学科3年の池田です。新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中、社会学部生同士や社会学部の卒業生との繋がりをどのように実現するか、社会学部がコロナ禍でありながらも盛り上がる事ができる企画はどのようなものなのかを考えていきたいと思っております。また現在学生会は少人数での活動となっていますため、この1年を通し学内学会の魅力社会学部全体に伝え、もう少し大きな組織にしてい

けたらいいなと感じております。1年間頑張りますのでよろしく願いいたします。

〈卒業生部会〉

今年度より、卒業生部会の委員長を前委員長の麓良久氏より引き継がせていただきました、社会学科1992年卒堀込伸一と申します。

昨年度来のコロナ禍にあって、われわれの生活はさまざまな面で制約を強いられるようになりました。学内学会の活動も然り。今年度の活動についても、現時点で有用な展望を見出せる状況にはありません。しかしながら、コロナ禍にある当事者だからこそ、今できることもあるのではないのでしょうか。卒業して、早30年近くの年月が経ちましたが、学内学会を通じて、あらためて「社会学」と向き合い、コロナ渦中にあっても皆様と共に会得できるものを大切にしていこうと思います。

今年度より卒業生部会役員は新体制となりました。若輩にて誠に非力ではありますが、卒業生部会の活動が今後の社会学部の進展と、現役の学生の為に少しでも寄与できれば幸いです。

今後とも皆様のご教示、ご支援、そしてご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 2021年度 学内学会活動予定

- 4月1日(月) 【学生部会】新入生ガイダンスで広報(白金校舎)
- 4月15日(木) 【学生部会】団体説明会(オンライン開催)
- 4月22日(木) 【学生部会】団体説明会(オンライン開催)
- 5月10日(月) 【学生部会】団体説明会(オンライン開催)
- 5月21日(金) 第1回合同役員会議(オンライン開催)
- 6月1日(火) 会報30号発行 2600部
- 6月26日(土) 第31回総会・講演会(オンライン開催)
- 8月～9月上旬 【学生部会】座談会
- 9月中旬 【学生部会】団体説明会(オンライン開催)
- 10月中旬 【学生部会】社会学科ゼミサロン
- 10月下旬 【学生部会】講演会
- 11月中旬 【卒業生部会】社会福祉学科卒業生と在校生の交流会
- 12月上旬 【学生部会】上映会
- 12月中旬 研究発表会
- 2月中旬 第2回合同役員会議
- 3月中旬 Socially30号発行
- 日程未定 【卒業生部会】講演会

## 第31回総会・特別講演会のお知らせ

今年度はオンラインで総会と講演会を開催いたします。

ご自宅からご参加いただけますので、是非お申込みください！

日時：6月26日(土)

14：00～14：45 学内学会 総会

15：00～16：30 講演会

会場：Zoom会議室(お申込みいただいた方にアクセス情報をお送りします)

お申込フォーム：

(<https://forms.gle/B7ePA77T4LDHYBhD8>) →



※講演会のみのお申込みも可能です。

講演会テーマ：

意外とできちゃう!? 社会を豊かにする仕組みづくり～発達障害の方の「働きたい」「働きたい」を支える視点から～

講演者：岸川朋子氏(本学社会福祉学科卒業生)

現在、就労継続支援B型オフィスウイングのサービス管理責任者として、発達障害の方々の日中活動支援・生活支援・就労支援に従事している。

Zoomへの接続手順説明書はこちらをご参照ください。→

([https://drive.google.com/drive/folders/1BMWufqjXzKX8eBeyV4p8B0w9O\\_SG7gdH](https://drive.google.com/drive/folders/1BMWufqjXzKX8eBeyV4p8B0w9O_SG7gdH))



連絡先：〒108-8636 港区白金台1-2-37  
明治学院大学社会学部附属研究所内  
明治学院大学社会学・社会福祉学会  
E-mail [shakaimg@soc.meijigakuin.ac.jp](mailto:shakaimg@soc.meijigakuin.ac.jp)  
会費振込先：郵便振込 00170 - 5 - 96903  
明治学院大学社会学・社会福祉学会

※住所変更の際はハガキ又はメールでご連絡下さい。